おーい図書館 No.160

発行 おーい図書館
代表 青木 和子
松戸市牧の原1-104-416
TEL. 047-311-0886

第十四回 千葉県内図書館関係市民団体連絡会

報告　青木　和子

1月26日(土)　千葉市中央図書館グループ研修室で開催され、7団体(市川・市原・浦安・君津・佐倉・千葉・松戸)が参加。担当は「としょかんふれんず千葉市(以下「ふれんず」)」でした。

はじめに、千葉市中央図書館長のご挨拶がありました。

会の前半は、「ふれんず」代表石倉賢一さんの講演「アムステルダム市立中央図書館ースライドで見る欧州最大の公共図書館」でした。

オランダ・アムステルダム市は、人口約79万人、図書館数は28館(スキポール空港図書館を含む)。

中央館は開館6年目。アムステルダム中央駅から徒歩5分の文教地区(付近には国立音楽院や海洋博物館など)にあり、蔵書数約70万冊、保存図書約100万冊、視聴覚資料11万タイトルで、防音室を備えるなど、音楽資料を大事にしている。

欧州各国の新聞・雑誌は非常に多い(2500～3000タイトル)。

入館者数は平日5000人、休日7000人、年間180万人。クリスマス休暇5日間を除いて通年開館。職員数は約180人(3交代勤務)。年間予算は約15億円(2010年)。

建物の建築設計は公募で決定され、地上8階地下1階、2万8千㎡で、欧州最大の図書館。

図書館の基本コンセプトは「冒険と滞在への招待」とし、ゆったりした快適な空間でゆっくりと調べたり楽しむことで、創造力を育てることを大切にしている。

以前、アメリカの図書館を視察された常世田さんの講演で、スライドを見ながら先進的な図書館に思いを馳せましたが、欧州もまたはるかに先を行く図書館先進国であることを納得しました。

会の後半は、各団体の活動が報告されました。

・市川…会員は110名ほどで、毎年30人くらい出入りがある。返却本の配架は毎日6～7人で

行っているが、高齢化もあって、もっとも大変な仕事だ。

○市原…図書館協議会の時、指定管理者を導入した町の資料が配られたので心配になり、勉強したが、現在その動きはない。今後注意しなければならない。

市原に友の会は無い。文庫連では図書館について勉強する勝会がないので、連絡会で勉強したい。

○浦安…図書館協議会には、友の会から一名入っている。

図書館のお手伝いはしないが、良い関係を築いている。ブックスタートとしおり作りは手伝っている。

ロビー活動を大事にしている。

2年ぶりに、市内の明海大学図書館を見学した。

友の会20周年感謝の会(2月24日(日))は、茶話会と前館長常世田良さんの講演会。

○君津…図書館のお手伝いはしない。図書館員との話し合いを、年一回行っている。

図書館開館10周年記念バッグを製作販売し、市内35校の学校図書館補助員支援のために寄付をした。

○佐倉…友の会は無い。

図書館協議会には、文連から一名入っている。公募委員は3名だが、退職後の男性が多いたのか、子ども向けの発言は少ない。

中央図書館の「中央」を削り、3館が同列となったが、弊害もあるように思う。

定例会は図書館の一室を使える。

○千葉…会の活動としては、市への要望書提出、図書館を応援する、図書館を市民に広める、しかし労務提供はしない。

古本市には協力して寄付した。

図書館協議会の公募委員が2人になり、会からも入っている。以前は報告のための協議会だったが、市民の意見が反映されるようになった。図書館に理解ある委員長の存在が大きいと思う。

○松戸…市内の多くの市民団体共催の「憲法記念日の集い」は、昨年で10回目。大江健三郎さんの講演会を開催した。

福島原発事故で、松戸など東葛地域はホットスポットになってしまった。郡山市在住の臨床心理士の講演会を開催し、現地の生の声を聞かせて頂いた。

2月9日(土)には、初めて松戸市立図書館主催で常世田良さんの講演会を開催。

最後に、市川図書館友の会から、この連絡会の今後について話し合う必要があるのではないかとの提案がありました。それぞれが疑問に感じていたことでもあり、様々

な意見が出されました。が、時間切れとなったため、この件については次回へ持ち越し、改めて話し合うことになりました。

三田市議会傍聴

報告　青木 和子

3月4日(月)、山中啓文議員が図書館について質問されると聞き、市議会本会議を傍聴しました。

(質)教育施政方針について

図書館の持つ学習機会の拡大と充実とは、具体的にはどのようなものですか。

(答)(生涯学習本部長)

図書館は、生涯学習の中心である。市民のニーズに応えられるような各種講座を開く・子ども読書推進センターを活用して、企画・展示・講座を行いたい。

本館と分館の間の連絡車はこれまでは週5回だったが、H25年度からは週6回に変更する。

小金分館は祝日開館とする。

HPでのPRなどで、図書館の利用拡大につなげたい。

(質)山中議員は、「昨年行われたアンケートは、どのように生かされているのか。

図書館は文化の象徴である。今年も図書館政策に関わっていく予定なので、よろしくお願いします」と、質問をしめくくりました。

投稿

ノッティンガム会費制図書館

イギリス在住　山本 光子

私が現在住む、イギリスのノッティンガムシャアの州都ノッティンガム市には、今では数少なくなった、会費制図書館がある。

ノッティンガム会費制図書館は1816年に、聖職者であり医師でもあった人の蔵書の遺贈が発端となって、ノッティンガム市・州の有志150人が集まって設立された。市内にガス灯の街灯が設置されてから3年目である。大都会とは言えない市にも文明開化が訪れ、市の中産階級市民の間に起こった知識欲求の表れの一つといえよう。

1822年に、市内中心地の、地下階に銀行店舗、地上4階を銀行家家

族が邸宅としていた、高級下駄履き住宅「ブロムニー・ハウス」を買い取り、移転し、通称を「ブロムニー・ハウス図書館」と呼ばれるようになり、現在に至っている。

私は、昨秋、同図書館の無料公開日に訪れてみた。

英国で、一般市民が無料で利用できる、最初の公共図書館は、1425年設立である。地方税を財源とする図書館は、1850年の『公共図書館法』の制定まで無かった(ノッティンガム市立図書館は1868年開館)。公共図書館の発展で、19世紀には274の会費制図書館があったが、現在は29が残っているだけである。

ブロムニー・ハウス図書館は、クラブ的な雰囲気を持っている。4万冊に近い蔵書(CDも含む)が最上階を除く各部屋の壁を完全に覆った書棚に、ざっしりと並ぶ。

同図書館の会費は、年に1万円(学生や市外居住者は8千円)である。当初、図書館は、会員数を300人以内に限定していたが、現在の会費納入者は1万2千人に上る。図書館を利用できるのは、納入者および同居する家族である。

年間700〜800冊の図書を購入するという。本の選択は、委員会が会員の要望を踏まえて決める。最近の会報に、新規図書購入方針についての盛んな意見のやり取りが載っていた。新聞・雑誌類は、各紙誌ごとに会員の間に年間スポンサーを募り、希望者の中から抽選で決める。

図書館の維持のために、様々なボランティア活動が行われている。庭は庭師が一人雇われているが、ボランティアが助ける。蔵書カタログはインデックス・カードであるが、宝くじから交付金を得て、デイジタル化が進行中である。4名のパートタイマーに加えて、35人のボランティアが取り組む。古い本も多く、本を読める状態に維持することも重要な事項である。こちらは全員がボランティアで、4組に分けて、各人は1ヶ月に1回の割合で本の保存修理をしているということだった。

夏の休暇シーズンが始まる前の土曜日に、会員の交流のための園遊会が開かれるが、次の週の水曜日は、たくさんの会員の参加が期待されている、蔵書の煤払いデーである。

園遊会の他にも、週1回の講演、年に数回の見学旅行など、各種の催しが行われる。設立当初から、同図書館では、会員同士で議論や討論が頻繁に行われたというが、その現代版といったところだろうか。